

はじめに

英語のコミュニケーション能力を測る視点として英語4技能というものがあります。listening「聞く」、reading「読む」、speaking「話す」、writing「書く」という4つの視点です。この4技能は、情報入力（インプット）型のlistening / readingの2つと情報発信（アウトプット）型のspeaking / writingという2つに、また、口語（話し言葉）の運用能力であるlistening / speakingの2つと文語（書き言葉）の運用能力であるreading / writingの2つという視点に分類できます。

4技能を下支えするものとして、語彙や文法そしてスキーマがあります。

今、この「はじめに」を読んでいる皆さんには、語彙や文法が英語4技能の基礎になることは分かるけど、スキーマって一体何？ それおいしいの？と思われるかもしれません。スキーマとは聞き覚えのない言葉と思われるので、ブリタニカ国際大百科事典をひもといてみると、【スキーマ理論】(scheme theory)という項目があります。少々長いのですが、まずはこの定義をご紹介します。

【スキーマ理論】とは、「知識の構造を表現する手段であるスキーマに関する理論。スキーマとは、いくつかの物事に共通して現れる型についての情報を表現したもので、その語源はイギリスの心理学者C.バートレットの1932年の論文により提示された。スキーマには、いすなどの対象物が通常持っている性質の集合を記述するために使われるフレーム、人がレストランに出かけるときなどによく起こる一連の出来事を記述するスクリプトなどがある」。これを読んでもまだ今一つピンとこない人が多いと思われるので、これからかみ砕いて説明をしましょう。まずは、スキーマはフレームとスクリプトから成立していると考えてください。

ではフレームとは何でしょうか。なぜなぜから始めてみましょう。「一部がガラスで出来ている鉄製の箱の下にタイヤが4つ付いています。その箱には人がちょっと屈んで出入りできるドアが左右にあります。また、その箱の中には複数の座席がありますが、そのうちの1つには正面にハンドルが、足元にはアクセルやブレーキがついた座席があり、その座席についた人が各種の機械を操作して、その箱を前後に動かすことができます。さて、その箱は何でしょう」。答えは出ましたか。そうです、答えは自動車です。そして、このなぜなぜで提示されたヒントというべき様々な情報が「フレーム」なのです。「フレーム」とは、ある物事に関するバラバラな知識が集まって、一つのまとまった一般化された知識になるということなのです。

次にスクリプトとは何でしょうか。皆さんは大学受験を考えていると思いますが、実は「受験」も「スクリプト」の一つなのです。受験には、志望校の選定、受験科目の勉強、受験に必要な願書の入手や受験料の支払い、受験日に会場に行

くなどの一連の流れがありますが、これが「スクリプト」です。「スクリプト」とは、ある出来事に関する一連の流れのことなのです。スクリプトの例をもう一つ挙げましょう。路線バスです。路線バスには、どこまで乗っても料金が変わらない均一料金制のバスと、乗った距離に料金が比例する整理券方式のバスがあります。不慣れた土地では、バスの利用の仕方が異なるため、つまり、「スクリプト」が異なるために、まごついた経験がある人も多いと思います。

語彙を増やし文法を勉強しても、思うように英語の成績が伸びない場合は、実は英語4技能の下支えとなるスキーマが欠けている場合が多いということに、この本を手にとった皆さんには気づいて欲しいのです。例えば、「ミツバチの習性」についてのスキーマがあることによって、「ミツバチの習性」について書かれた英文の読み取りがそうでない人よりも楽になることに気づいて欲しいのです。

この問題集はこうした問題に対処するために、文章の読み進め方やその内容をつかむ練習ができるように工夫を凝らしています。長い一文の場合、その文を前から短く区切って、一区切りごとで意味をつかみながら前から読み進め、文全体の意味を論理的に組み立てていけるようにスラッシュ和訳を提示しています。

また、英文全体の内容を把握できるように、まずは各パラグラフの要約の仕方を説明した模範要約を示し、英文全体の要約の仕方と全体要約に至るまでのプロセスを提示しています。こうした文章の読み方に慣れることで、読解力と背景知識（シェーマ）が深まり、世界観が広がることでしょう。

英語4技能の話に戻りますが、この4技能のうちで、皆さんが優先すべきものは何でしょうか。それはlisteningとreadingになります。予め買い物をしていないと冷蔵庫には何もなく、したがって、料理をすることもできません。つまり、インプットなしにアウトプットはあり得ないことを意識してください。バラバラな知識（フレーム）を一つの体系的な知識（スクリプト）に整理する一つの方法としてこの問題集を利用して、皆さんそれぞれの夢の実現に向かって、最後まで駆け抜けて欲しいと思います。

本書の使い方

本書は「問題冊子」と「解答・解説編」に分かれています。まずは「問題」に取り組み、その後「解答・解説編」を読むという流れになります。

①各問題の標準解答時間を目標に解答する。

あくまでも目標ですので、達成できない場合でもそのまま解答を続けてください。

②各パラグラフの要約を書く。

解答後は、すぐに答え合わせをするのではなく、本文の要約を試みてください。書くことによって、自分の理解度を知ることが出来ます。要約が書けるまで何度でも読み返してください。分からなかった語句などを調べながら結構です。この作業を通して皆さんの思考力を高めることが可能となります。

③解答・解説編で答え合わせする。

各設問の解答の根拠が明確に示してあります。英文和訳問題では文構造も明示してあるので「なんとなく」ではなく「厳密に」理解することを心がけてください。

④解答・解説編でさらに学習を深める。

パラグラフごとに皆さんの学習を深めるための仕掛けが用意されています。それぞれの目的を理解し活用してください。

【For slash Reading】

速読練習として活用してください。「日本語で訳しながら読む」のではなく、「英語のまま左から右へと読み進める」練習をすることが目的です。

【Sentence Structure】

精読学習として活用してください。構造を見失いそうな複雑な文や、重要構文を個別に解説してあります。

【Words & Phrases】

本文中に出てきた重要語句を整理してあります。しっかり記憶しましょう。

【Road to Summary】 & 【Summary】

読解プロセスの確認に活用してください。ここでは各段落の論理展開を整理し、それを元に要約してあります。解答後の皆さん自身の要約と照らし合わせながら学習することで、理解度を図ることが出来ます。

【Watch Word】 & 【Answer】

英文をより深く理解する視点・ヒントを与えてくれる語句を、質問形式で取り上げています。知識・思考力を身につけるために活用してください。

【Road to Overall Summary】

Road to Summaryでは、各段落の要約を作るためのヒントを提示していますが、ここでは、本文全体の要約を作るにはどこに注目すべきか、また、どのように要約を作るのかを解説しています。複数の段落から構成される1つの長文として見た場合に、各段落がどのような役割を果たしているのかが理解できます。

【Overall Summary】

本文全体の要約と、「主題・事実・立論・結論」という簡潔な要約から成ります。「主題」とは各長文のテーマであり、何について書かれているのかを、「事実」とは筆者の分析対象あるいは描写対象である本文中の事実を、「立論」とは「事実」に対する筆者の提案や分析であり、「結論」とは筆者がその長文を通して一番言いたいことである主張をまとめています。

1つ1つの英文が集まり1つの段落になり、そして複数の段落から構成される1つのまとまりのある長文としての鳥瞰図と考えてください。

Answer

「わずかな差が大きな違いを生み出す」という主張の具体例である。

13

For Slash Reading

●Sports is another good example. / ●One doesn't have to be much better / than
 スポーツはもう1つのよい例である / 人ははるかに優れる必要はない / 他者
 others / to win. / ●The difference between winning and losing / is often very
 よりも / 勝つために / 勝利と敗北の間の違いは / しばしばとても
 small. / ●At the Olympics, / the difference between winning and losing / is often just
 小さい / オリンピックでは / 勝利と敗北の間の違いは / しばしばほんの
 0.1 second / or just a centimeter or two. / ●Such a small difference can
 0.1秒ほどである / あるいはほんの1,2センチほど / そのようなわずかな違いが
 determine / who gets a gold medal. /
 決定しうる / 誰が金メダルを獲得のかを /

Words & Phrases

example 「例」

determine O 「Oを決定する」

centimeter 「センチメートル」

Road to Summary

第①文 another から、前段落に引き続き具体例が挙げられていることがわかる。この段落では、スポーツを例に出し「勝負を決定づけるのはわずかな差に過ぎない」ことを論じ、ここでもわずかな差の重要性を述べている。

Summary

スポーツもわずかな差で勝敗が決まる。

Watch Word

第①文の another からどのようなことが考えられるか？

Answer

具体例の追加である。

「進む速さの違う時計」という具体例に追加する形で「スポーツ」について論じている。

Watch Word

superpower とはどんな意味か？

Answer

通常、「超能力」とは「異常な力」という意味で使うが、国際政治では「超大国」という意味になる。冷戦時代のアメリカやソビエト、2010年代以降は中国なども超大国という。

Road to Overall Summary

第1段落で「成功と失敗を分かつのはわずかな差にすぎない」というテーマの導入がなされ、続く第2, 3段落では具体例として「進む速さの違う時計」「スポーツでの勝敗」が紹介されている。第4段落で第1段落と同じ主張をし、第5段落で違いを生むためにはほんの少しの努力を重ねることを勧めている。

Overall Summary

成功と失敗の差はわずかである場合が多い。たとえ少しでも努力を積み重ねることで人は成功するものである。成功を望むなら、日々の小さな努力を怠ってはならない。

主題：成功と失敗の差はわずかである

事実：1時間に1秒の差でも積み重なると大きな差となる

スポーツの勝敗はわずかな差で決することが多い

立論：ちょっとした違いであっても、繰り返し行えば、成功へとつながる

結論：成功を望むなら小さな努力を積み重ねることが重要である